

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 7月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	0770700375		
法人名	特定非営利活動法人 豊心会		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	〒962-0822 福島県須賀川市東作2番地の8 (電話) 0248-73-5678		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなのビル302号室		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年8月11日

【情報提供票より】(平成 20年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	16人, 非常勤 1人, 常勤換算 16.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	平階建ての 1 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	3~10月3000円 11~4月6000円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	7名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.5歳	最低	73歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田記念病院、寿泉堂松南病院、矢部病院、小松歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな高台の住宅街の一角にあり、隣接する同法人の居宅介護事業所、デイサービス等とともに一般住宅のような建物でまわりの住環境に溶け込んでいる。玄関の戸は開け放してあり、利用者は外来者に対しても違和感なく接しており、安心して生活していることが感じられる。管理者をはじめ全職員が仕事に対して意欲的であり、チームワークも良好で、看取りについても全職員が積極的に取り組み、現在まで3名の看取りを行った。また、法人の事務局長が県認知症グループホーム連絡協議会の役員として活躍しており、他のグループホームの視察研修を多く受け入れている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価結果を全職員で話し合い、改善に取り組んでいるが、理念に地域密着型サービスの具体的な表現がされていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の重要性を職員全員が理解しており、今回も全職員で自己評価を行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議は定期的開催しており、内容は利用者の状況、行事報告、事故発生事例、ボランティアの受入、地域の行事への参加等である。活動状況については、パワーポイントを使用して報告しており、活動の様子を見ることができ、委員からは好評である。委員からはいろいろな意見や助言があり、充実したものになっている。また、ホームで看取りを行った家族が運営推進委員のひとりとして参加している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回利用者の暮らしぶりや健康状態を一人ひとり個別に「個人だより」として写真、コメントつきで家族に知らせており、家族から好評を得ている。また、金銭管理についても一緒に知らせている。ホーム全体の行事等はすずらん便り(月に1度発行)で報告している。面会時や電話等でもきめ細かに報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指して、認知症地域ネットワーク「この葉ネット」を法人内の職員が立ち上げ、職員はじめ、行政職員などいろいろな分野の方々が所属し、現在60名の会員で活動している。また、運営推進委員の助言により地域の老人会の行事等への参加やボランティアの受け入れ等を行い、地域との交流に積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で理念を見直し、すずらん1、すずらん2それぞれに職員が考えを出し合い目標を作り、地域に根ざした様々な事業を実践してきたが、地域密着型サービスの理念とはなっていない。	○	理念に地域密着型サービスとしての役割を反映した具体的な表現を加えることを望む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で日々理念の実践に向けて努力している。管理者は新人職員に対してあらゆる機会を通して話し、理念の共有に努めている。		新しい理念を全職員で作りに上げることによって、理念の共有は容易に図られると思われる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進委員の助言により、地区の行事等に参加できるようになり、交流が進んでいる。町内会に加入しており、隣接の児童館等とも交流している。また、認知症地域ネットワーク「この葉ネット」を通して、積極的に地域活動に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は介護サービスの質の向上の基本であるとの認識から、職員全員で日々のサービスにおける課題を明らかにしながら、評価に取り組んでいる。この評価結果を踏まえ、今後のサービスに活かしていくことにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的開催し内容は利用者の状況や行事の報告だけでなく、研修会の実施状況や地域の行事の把握および参加等多岐にわたっており、運営推進会議の意義を十分活かした取り組みをしている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族へは月1回定期的にご利用者の状況や金銭出納等を報告している。[すずらん便り]ではホームの行事等を知らせている。また、一人ひとりの写真を添付した個別の便りを作成し家族に送っている。希望があれば遠方の家族にも送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に家族からの要望や意見を言いやすい雰囲気作りに努めており、出された要望や意見等は運営に反映させる体制になっている。また、7月に法人内のグループホームが合同で家族会を開催し、さらに要望や意見の聴取に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については十分配慮されている。止むを得ない異動（ほとんどが産休）については、新旧職員と一緒にケアにあたる期間を設け、利用者へのダメージの軽減に努めている。職員の産休については利用者も理解している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間研修計画により、内部研修だけでなく外部の研修へ積極的に参加させており、職員の資質向上に努めている。また、専門職として必要な知識の資格取得についても支援しており、働きながらのトレーニングに力を入れ、資格取得者も多い。事例報告を専門誌に寄稿するなどしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症グループホーム連絡協議会に参加し、意見交換会や情報交換を通して交流している。また、県内外からの視察研修を多く受け入れており、他のホームと交流することにより、サービスの質の向上に役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意なことや昔の風習、行事食等を教えてもらい、お互いに支えあいながら自然体で「共に生きる」を大切に生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の個々の状態に応じてセンター方式のシートを利用し、利用者や家族から意向を聴取し、生活支援に反映させている。また、利用者の生活のリズムを把握し、利用者が快適に過ごせるよう職員が意見交換をしながら支援している。		今後も継続して利用者の意向の把握に努められることを望む。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員でアセスメントを実施し、利用者本位の介護計画を作成している。家族の意向や本人の思いを介護計画に反映させている。職員で話し合いをし、独自の記入様式も取り入れている。		今後は全家族と連絡を密にされることが望ましい。また、新任職員が4名程度いるので、介護計画に対する全職員の意識の向上を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しのほかに利用者の状態の変化等に応じて計画の見直しを行っている。常時利用者や家族とも話し合い、要望や状態の変化に応じて見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診に家族が同行できないときは職員が対応しその結果を家族に知らせ、情報の共有をしている。往診も月に1度は来てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する指針を定めている。利用者や家族に説明し、終末期の利用者や家族の意思を確認し同意を得ている。また、現在まで3名の看取りを行っており、職員全員で方針の共有をしている。なお医療チームとの連携体制ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は全職員が日々の支援の中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。「個人情報使用に関わる同意書」については家族に説明し、同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や思いに配慮しながら支援している。買い物や散歩等、一人ひとりの希望を大切に支援している。状況によっては希望にそえないときもある。		一人ひとりの希望にそえるよう、必要に応じて勤務内容を検討していくとしているので、期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳等利用者ができることを自然に行っており、また職員も利用者と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。利用者によって刻み食、とろみ食の対応をしている。ゆっくりと食べる人や自分の時間に合わせて食卓につく人など、利用者のペースに合わせている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望に配慮しながら支援している。毎日入浴している方もおり、2日に1度は入浴するよう支援している。また、体調により入浴できない場合には、清拭や足浴等を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	ホームの畑での野菜作りや、花壇の手入れ等それぞれが楽しんでいる。また料理、裁縫、刺し子等利用者の希望に応じて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	外出の機会を多く企画(天王祭、紫陽花寺見学、花火大会、薔薇鑑賞会、南湖公園、牡丹園、大桑原つつじ園、大池公園、老人会のカラオケ大会等)して実施している。また、買物や散歩等利用者の希望にそって支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。季節によっては玄関の戸は開け放しており、いつでも自由に外出できる様になっている。評価当日も玄関の戸は開け放してあった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的実施している。法人内の隣接する施設との協力体制が整っており、災害時の備蓄もされている。		今後は月1回程度あらゆる場面を想定して災害訓練を実施されることが望ましい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は個別記録に記入し把握している。また、体重測定を行い、健康管理に役立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、玄関やテーブルには花が飾られ明るく清潔に保たれている。廊下や出入り口には椅子が置いてあり、利用者が好みの場所で自由に過ごしている。共有空間には心地良い音量で音楽が流れており、落ち着いた雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が馴染みの品（筆筒、テーブル、椅子、ミシン、仏壇等）を持ち込み、それぞれ個性的な居室となっている。カーペットなども敷き、転倒防止にも配慮している、		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームすずらん

記入担当者名 菅野 道代

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。